



森林ふれあい情報

平成27年3月
第34号

中部森林管理局木曾森林ふれあい推進センター
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

中部森林技術交流発表会

優秀賞受賞

平成27年1月28日～29日に実施された中部森林技術交流発表会において、「木曾駒ヶ岳における植生復元作業について（10年間の取組み）」と題しボランティアによる植生復元作業や、モニタリング調査の結果について、当センターと東京コンサルタンツ株式会社（今年度木曾駒ヶ岳における植生復元対策調査を請負った会社）との共同で発表しました。発表結果は10年間の継続した活動等が評価され、局長優秀賞をいただくことが出来ました。

以下に、発表要旨を紹介します。



1. はじめに

中央アルプス木曾駒ヶ岳周辺においては、登山者による踏み荒らしや、大量の降雨・降雪等による砂礫の移動により高山植物の生育地が荒廃し、貴重な高山植物の衰退が懸念されていることから、植生マット敷設による植生復元作業とそのモニタリング調査を実施しています。

2. 取組みの経過

植生復元作業は、平成16年度に植生荒廃の著しい登山道周辺において植生の現況等を明らかにし、将来的に荒廃した植生の復元を図るため、信州大学、長野県環境保全研究所、地元NPO団体、地方事務所、関係市町村、山岳会による検討会を立ち上げ、植生の復元や維持管理のための方法等について検討

を行い、それを基に方針を立て植生復元の方向性を決めました。

その結果、平成17年度からボランティアや地元関係者の協力を得ながら植生マットを敷設し、マットの下に現地周辺で採取した種を蒔くといった一連の作業を実施してきています。

モニタリング調査は、植生マット敷設箇所において1m×1m四方を基本として植生の分布状況に応じた大きさの固定プロットを設置し、方眼紙を用いて種名、株の形や大きさ、位置、目印となる礫等をスケッチしたプロット図を作成し、被度（%）草丈（cm）固体数等を記録しました。

3. 実行結果

植生復元作業におけるこの10年間の植生マット敷設面積は合計で1,967㎡、参加人員は延べ334人となりました。

また、モニタリング調査の結果、植生復元作業を実施した箇所では全体として植生は順調に回復していました。環境が比較的安定した風背地ではもちろんのこと、常に強風にさらされる風衝地においても順調な回復を見せています。

植生回復の傾向として、マット敷設後数年は、ほとんど植生が発達していない状態が続き、高山植物の実生（芽生え）が進入と消失を繰り返していました。敷設後、4～5年程度経過すると定着した実生が大きく生長して来ました

これまでのモニタリングの結果、事例の少ない高山帯における植生回復初期の様子を記録として残すことができ、長い目でモニタリングすることの重要性も明らかになりました。

4. 考察

長期間にわたるモニタリングの結果から、風衝地風背地といった立地により植生回復の速度は異なるものの、植生復元作業により人による踏み込みがなくなるだけで着実な植生回復をみせることがわかりました。逆に地表を水が流れる場所のように表土が移動する場所や、冬季に凍上する場所では植生回復は難しく、表土の状態を整える必要があることが考えられました。

5. おわりに

高山植生回復のために、今後も登山道沿いを中心に植生マット等による復元作業を行うとともに、過去に敷設した箇所への補修にも取り組み、敷設箇所へのモニタリング調査を実施し、高山の本来あるべき自然を可能な限り回復させ、高山植物のあふれる木曾駒ヶ岳を目指し、継続していきたいと考えています。



写真左から藤田氏（東京コンサルタンツ）
小林自然再生指導官、岩本所長

**上下流交流 がんばろう木曾！
木曾の復興を応援しています**

7月の南木曾町の土石流災害、8月の台風接近、そして9月の御嶽山の噴火によって、木曾地域の観光産業やスキー場が大きな打撃を受けていることに支援・応援をするため、木曾観光連盟、地元町村、観光協会と連携し、木曾川の下流域の住民に対してこの地方に関心を持って頂くため、観光パンフレットを中部森林管理局名古屋事務所の「林業の歴史と木材利用展示室」と同事務所が連携している名古屋市熱田区の生涯学習センターに設置し、木曾地域のPRを川下で情報発信しました。



熱田区の生涯学習センターに設置



名古屋事務所 展示室



観光パンフレット

また、木曾地域のスキー場ポスターを（一社）名古屋林業土木協会の協力により、「がんばろう木曾！」といった説明書きを添え、「白鳥公園通り」に面する同協会外壁の木製掲示板に掲示しPRするなど木曾地域の貢献に取り組みました。

更に、一部が入山規制区域になっていた「おんたけ2240」スキー場が2月26日にオープンにあわせてポスターの掲示に協力頂きました。



スキー場ポスター